



二十歳の声
 新成人代表 大草 祥史さん

今、自分の夢の実現を目指し勉強している人、既に社会人として働いている人、私たちはそれぞれ自分で選んだ道を、懸命に歩んでいるところです。毎日がとても充実している人もいれば、中には、自分の思い通りに事が進まず、悩んでいる人などその道のりは様々だと思います。

私は今、長門市を離れ、山口市の大学に通っています。勉強やアル



バイトと忙しい毎口ですが、大学で出会った仲間と楽しく過ごしています。しかし、このような大学生活を送れることも、そして、今ここに立ち挨拶することも、もしかしたらできていなかったこともありません。

私は、一昨年、大学入試を終えてすぐ急性骨髄性白血病と診断され、入院治療を余儀なくされました。病名を聞いた時、私は「このまま助からないのかな」と思い、涙が止まりませんでした。治療はとも辛く、苦しいものでしたが、「早く元気になるって友達に会いたい、大学に復学し勉強したい」という強い意思で耐えることができました。そして治療の甲斐もあって、無事退院でき、一年間休学の後、昨年の4月から大学生活を始めることが出来ました。

今こうしていられるのは、自分の「生きたい」という強い意志だけ

でなく、両親をはじめとする家族、友人、病院の先生その他多くの人々の支えがあったからです。だから私は、たとえの先どんなに辛いことがあったとしても、強く生きていきたいです。

私は入院するまで、二十歳になることは、当然のことだと思っていました。しかし、人生というものは、いつ何が起きるか分からないものです。入院という経験により、今まで見過ごしてきたものや、大切な事に気づくことができました。当然なことなど決してない。だから、私は日々の出会い、出来事に感謝していきたいと思っています。

二十歳を迎えた今思うこと、それは、日々目標を持ち、一つひとつの経験を大切に、そして人との出会いに感謝しながら、今があることを嬉しく思う、そんな自分であり続けたいということです。

平成21年 祝 長門市成人式 長門市成人式



501人が大人の仲間入り



1月3日、ルネッサながとで平成21年成人式が行われ、新成人380人(対象者501人)が出席しました。

式典では、松林市長が「成人式は大人に成長していく過程の通過点です。立派な社会人として、常に自分の行動に責任を持ち、それぞれの生き方をしっかりと考えてください」とあいさつ。新成人を代表して中原美可子さん(大羽山)が記念品を受け取り「大人としての常識と教養を身につけ、これから待っている厳しい道を精一杯歩んでいきたいと思えます」とお礼を述べました。「二十歳の声」として大草祥史さん(豊原)が新成人としての決意を述べました。

式典後は、アトラクションとして「翔門」による和太鼓演奏が披露され、その後地区別の記念写真の撮影が行われました。

